

第 79 回九州数学教育会総会並びに九州算数・数学教育研究（宮崎）大会趣意書

第 79 回九州数学教育会総会並びに九州算数・数学教育研究（宮崎）大会が、令和 7 年 7 月 23 日から 25 日の 3 日間、宮崎市で開催されることとなりました。この大会は、九州全県の小・中・高等学校及び大学等の算数・数学教育に携わる教職員が一堂に会し、算数・数学教育の充実、発展のために日頃の研究や実践を発表・協議する大会であります。本大会は、公益社団法人九州数学教育会を主催団体に、公益社団法人日本数学教育学会の後援のもと、昭和 22 年に熊本市で第 1 回研究大会を開催して以来、毎年九州各県を持ち回る形で開催されております。その間、多くの教職員の熱心な取り組みや各教育行政機関並びに関係各位の絶大なるご支援、ご理解のもと、年々充実発展させてまいることが出来ました。

平成 29 年から 31 年にかけて改訂された現行の学習指導要領では、予測が困難な未来社会において、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決すること、様々な情報を見極め、知識を概念的に理解し、情報を再構成するなどして新たな価値を創造すること、また、複雑な状況変化において目的を再構築することを可能とする資質・能力の育成が目指されています。そこでは、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、生涯にわたり能動的に学び続けるようになるための学習の質の一層の向上と授業改善の活性化が求められ、その視点として「主体的・対話的で深い学び」が強調されています。

一方、子どもたちの実態をみると、国際調査 PISA2022 では、日本の数学的リテラシーの平均得点は OECD 加盟国中 1 位ではあったものの、実生活における課題を数学を使って解決する自信は低く、数学を実生活における事象と関連付けて学んだ経験は少ないと感じている生徒が多いと指摘されています。また、日本の数学の授業では、数学的思考力の育成のため、日常生活とからめた指導を行っている傾向は OECD 平均に比べて低いという調査結果もあり、学習指導要領に掲げられた理念の実現にはまだ課題が残るといえるでしょう。

こうした状況を受けて、宮崎県では「ひなたの学び」という標語のもと、改めて「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた取り組みが行われています。「ひ」とりひとりが問いをもち、「な」かまとなって学び合い、「た」かめよう深く考える力」を意味する「ひなたの学び」の実現にむけて、様々な授業改善が進められています。

そこで、今回の宮崎大会の研究主題を

「ひなたの学び」のある算数・数学教育

— “ひ” とりひとりが問いをもち、“な” かまとなって学び合い、“た” かめよう深く考える力—

と掲げることにしました。

公開授業や研究発表では、「ひなたの学び」という標語のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業実践が紹介されることと思います。小・中・高等学校の各部会において、そうした授業実践をお集まりの先生方と共有し、九州のこれからの算数・数学教育の発展にむけて、建設的な議論ができることを期待しています。

宮崎大会は、平成 29 年に引きつづき、今回で 11 回目の開催となります。令和 5 年に準備委員会を立ち上げ、本年 8 月より本格的に準備活動をスタートさせ、前回大会以上のものにしよう関係者一同、日々努力を続けているところであります。

皆様におかれましては、九州数学教育会並びに九州算数・数学教育研究（宮崎）大会の趣旨をご理解いただき、本大会の成功のためにご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和 6 年 11 月吉日

公益社団法人 九州数学教育会会長

兼 宮崎県数学教育会会長	添 田 佳 伸	(宮崎大学教授)
宮崎大会実行委員長	木 根 主 税	(宮崎大学教授)
宮崎県数学教育会副会長(小学校部会長)	北 原 厚 子	(宮崎市立小松台小学校校長)
宮崎県数学教育会副会長(中学校部会長)	山 内 昭 弘	(宮崎市立住吉中学校校長)
宮崎県数学教育会副会長(高等学校部会長)	那 須 雅 博	(宮崎県立宮崎南高等学校校長)
宮崎県数学教育会事務局長	関 屋 文 智	(宮崎県立宮崎西高等学校教諭)